

未熟児動脈管開存の薬物治療法に関する
基礎的研究

(01570552)

平成元年度科学研究費補助金(一般研究C)

研 究 成 果 報 告 書

平成4年3月

研究代表者 門 間 和 夫

(東京女子医科大学循環器小児科教授)

未熟児動脈管開存の薬物治療法に関する基礎的研究 (01570552)
平成元年度科学研究費補助金 (一般研究C) 研究成果報告書 平成4年3月
研究代表者 門間和夫 (東京女子医科大学循環器小児科教授)

研究組織 研究代表者 門間和夫 (東京女子医科大学循環器小児科教授)
 研究分担者 高尾篤良 (東京女子医科大学循環器小児科名誉教授)

研究経費 平成元年度 1 0 0 0 千円
 平成2年度 6 0 0 千円
 平成3年度 6 0 0 千円

研究発表

ア. 学会誌等。

- (1) Momma, K. and Takao, A.: Increased constriction of the ductus arteriosus with combined administration of indomethacin and betamethasone in fetal rat. *Pediatric Research* 25:69-75, 1989.
- (2) Momma, K. and Takao, A.: Right ventricular concentric hypertrophy and left ventricular dilatation by ductal constriction in fetal rat. *Circulation Research* 64:1137-1146, 1989.
- (3) 門間和夫: インドメサシンとベーターメサゾンの併用による動脈管収縮. 日本心臓血圧研究振興会・昭和62年度研究業績集:3-5, 1989.
- (4) 門間和夫: 薬剤による動脈管収縮の研究. 昭和63年度厚生省心身障害研究・新生児管理における諸問題の総合的研究. pp 189-193.
- (5) 門間和夫: 動脈管開存の薬物治療. *小児科診療* 52:733-739, 1989.
- (6) 門間和夫: プロスタグランディンの基礎と臨床. *日本小児科学会雑誌* 94:1721-1724, 1990.
- (7) 門間和夫, 富松宏文: 薬剤による動脈管閉鎖・開存. *小児内科* 22:1303-1306, 1990.
- (8) 門間和夫: 動脈管の薬物治療の基礎と臨床. *日本発達薬理研究会雑誌* 3:1-11, 1990.
- (9) Momma, K., Ando, M. and Takao, A.: Fetal cardiac morphology of tetralogy of Fallot with absent pulmonary valve in the rat. *Circulation* 82:1343-1351, 1990.
- (10) Momma, K. and Takao, A.: Transplacental cardiovascular effects of four popular analgesics in rats. *American Journal Obstetrics and Gynecology*, 162:1304-1310, 1990.
- (11) 門間和夫: 先天性心疾患, 検査と技術. 19:102-108, 1991.

(12) 門間和夫, 森善樹, 山村英司: 胎生期心不全の心臓断面形態。日本新生児学会雑誌 27: 626-632, 1991.

(13) Momma, K., Ando, M., Takao, A. and Wu, F.F.: Fetal cardiovascular cross-sectional morphology of tetralogy of Fallot in rats. Fetal Diagnosis and Therapy 5:196-204, 1990.

イ. 口頭発表。

(1) 門間和夫: プロスタグランディンの基礎と臨床。日本小児科学会総会・教育講演, 平成2年4月。

(2) 門間和夫: 循環器系薬剤の発達薬理。日本小児科学会総会・解説シンポジウムII。平成3年5月。

ウ. 書物。

(1) 門間和夫: 動脈管開存症。高尾篤良編集: 臨床発達心臓病学。中外医学社, 東京。1989. pp 485-492.

(2) 門間和夫: 胎生期血行動態と出生時変化。高尾篤良編集: 臨床発達心臓病学。中外医学社, 東京。1989. pp 54-60.

(3) 門間和夫: 動脈管開存症。梶原長雄ほか編集: 循環器科診断治療大系 1:34-38, 1989 講談社。

(4) 門間和夫: 鎮痛解熱消炎剤。松田一郎監修: 妊婦への投薬。ミクス, 東京。1989. pp98-105.

(5) 門間和夫: 動脈管の薬物動態。新小児医学大系・年刊版。90B:37-45, 1990. 中山書店, 東京。

(6) Momma, K., Takao, A. and Nishikawa, T.: Hypertrophy and failure of the fetal heart following pharmacological constriction of the ductus arteriosus in rats. In Clark, E.B. and Takao, A. (Editors): Developmental Cardiology, Futura, Mt. Kisco, 1990. pp 347-358.

〔研究成果〕

この研究の成果は以上に記載した如く, 世界の一流雑誌, Pediatric Research, Circulation, Circulation Research 等に発表されている。その中から特に重要な論文を以下にまとめた。